

■がん治療に関わる診療科

健診センター

消化器内科

外 科

呼吸器外科

乳 腺 外 科

泌 尿 器 科

緩和医療科

放射線治療科

病 理 科

リハビリテーション科

聖隸キャンサーケター



卷頭言

キャンサーケターVol.11 発行に際して

令和7年(2025年)11月1日 緩和ケア病棟が再開の運びとなります。ここに至るまで多くの困難があり、それはまだ全てが解決したわけではありません。資金面、人員不足が重くのしかかっています。そのなかで病棟再開に踏み出すには勇氣が必要でした。それでも歩みを進めるのは私たちに信念があるからです。「聖隸の緩和ケア病棟」は今後多くの患者様・ご家族の支えとなれればと考えています。

令和7年10月吉日

がん医療支援センター長 真崎 義隆

ご紹介について

地域医療連携室にてお話を承ります。

総勢8名体制で各医療機関の皆様とのパイプ役として「顔の見える連携」を目指し、前方支援業務を中心に対応しております。

ご紹介以外でも何かございましたら下記連絡先にお気軽にお問合せ下さい。



●地域医療連携室

【直通TEL】043-486-5511

【直通FAX】043-486-1807

(日曜、祝祭日のぞく 平日 8:30 ~ 17:00 土 8:30 ~ 12:00)

■交通

【最寄駅から】

- 京成本線臼井駅 ちばグリーンバス(乗車時間 約10分)
- 京成本線佐倉駅 ちばグリーンバス(乗車時間 約15分)
- JR佐倉駅 タクシー(乗車時間 約15分)

【お車をご利用の場合】

- 東関東自動車道「四街道I.C」より約20分
- 東関東自動車道「佐倉I.C」より約20分

社会福祉法人 聖隸福祉事業団
聖隸佐倉市民病院

〒285-8765 千葉県佐倉市江原台2-36-2
TEL: 043-486-5511 (地域医療連携室)
043-486-1155 (患者さま用予約センター)
FAX: 043-486-1807 (地域医療連携室)

第11号 担当医・担当者紹介



緩和医療科部長

村 上 敏 史

- 日本麻酔学会専門医・指導医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- 日本緩和医療学会専門医・指導医
- 麻酔科標榜医
- 臨床研修指導医
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了

緩和医療科 病棟課長

鎌 田 佳 子



緩和医療科

2025年11月、緩和ケア病棟を再開します

～専門的緩和ケアの拠点として、地域連携の新たな一歩へ～

はじめに

この度、長らく休止しておりました専用の緩和ケア病棟を、2025年11月1日より再開いたします。私たちはWHOの定義に基づき、生命を脅かす病に直面する患者さんとご家族のQOL向上と、「その人らしい時間」を支えることを最大の理念としています。



再開する緩和ケア病棟の機能と特徴

再開する病棟は、全室個室でご家族の滞在スペースも確保した療養環境を提供します。専門的ケアとしては、疼痛・呼吸困難などの身体的苦痛に対し、薬物療法に加え、緩和的放射線治療や神経ブロックなども積極的に活用した「積極的な症状緩和」を行います。また、医師、看護師、薬剤師、MSWなど多職種が密に連携し、身体的・精神心理的・社会的な苦痛に包括的に対応します。病状に応じた専門的リハビリテーションも提供し、生活の質の維持・向上を図ります。



地域の医療従事者の皆様へ：具体的な連携のご提案

本病棟を地域全体の緩和ケアの質の向上に貢献する「専門的緩和ケアの拠点」としてご活用いただきたく、地域の医療従事者の皆様へ具体的な連携をご提案いたします。

1. 専門的症状緩和を目的とした入院（転院）のご相談

在宅や療養型病院での対応が困難な、コントロールに難渋する痛みやその他の苦痛症状をお持ちの患者さんを、緩和医療科外来へご紹介ください。多職種チームが専門的アプローチで集中的に症状緩和を図ります。
(対象はがんに対する積極的治療を終えられた方)

2. 在宅療養を支える「バックベッド」としてのご活用

在宅訪問診療を行っておられる先生方とのバックベッド設定をより一層強化します。事前に設定いただくことで、患者さんの症状増悪時やレスパイトが必要な際に、当院が責任をもって緊急入院の受け入れ先となります。原則として全てお引き受けする方針で、先生方が安心して在宅ケアに専念できるよう後方支援病院の役割を果たします。

おわりに

今後、地域の皆様にとって身近で信頼される拠点となるべく、皆様との「顔の見える関係」を築き、患者さんを中心としたシームレスなケアを提供するために連携を深めていきたいと願っております。病棟見学や連携に関するお問い合わせは随時受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。



緩和医療科部長 村上 敏史

緩和医療科 病棟課

緩和ケア病棟再開に向けて

～緩和ケア病棟の今までとこれから～

はじめに

当院では2005年7月より一般病棟の一部で「緩和ケア活動」が開始され、2007年6月に一般病棟を改修し「終末期癌患者の生きる希望を支え、その人らしい生き方ができるように共に過ごす」事を大切に緩和ケア専用病棟の開設となりました。病棟開設以来13年間多くの方との出会いがあり、何気ない日々の会話や特別感のある季節のイベントで、患者さんやご家族を始めスタッフも共に同じ時間を過ごしてきました。2020年以降新型コロナウイルス感染症の影響で専用病棟を休止いたしましたが、一般病棟内での緩和ケアを必要とする方との関わりは変わることなく継続され、「共にいる」という時間を大切にケアの実践をしてきました。今回緩和ケア病棟の再開にあたり、緩和ケア病棟としての今までを振り返り、現在、そしてこれからの緩和ケアについてお伝えしたいと思います。



談話室での友人との食事会風景

緩和ケア病棟の今まで

緩和ケア病棟では専門性を持った医療チームがそれぞれの力を発揮し、終末期を過ごされる患者さんの「その人らしい時間」を支える事を目標に医療の提供をしてきました。病気そのものから生じる身体的な苦しみや、心理社会的な苦しみなど様々な苦しみを持つ方に、チームとして苦しみを和らげるケアを実践してきました。患者さんが夜中「眠れないんだよ」とおっしゃったときに、ベッドサイドの椅子に腰掛けお話を聴くなど、「共にいる」ことを大切にケアを実践をしてきました。また、季節のイベントを開催し患者さんの新たな一面を発見!!というような場面もありました。日々を穏やかに過ごす事ができる様に緩和ケアの提供を行ってまいりました。

緩和ケア病床としての現在

2020年以降は一般病棟内での緩和ケアの提供となりましたが、「その人らしい時間」を支える、という目標はそのままにケアの実践を行っています。一般病棟内で緩和ケアを行うにあたり、勉強会を開催し緩和ケアの知識を深め緩和ケアを実践しています。一般病棟内で緩和ケアを行う事には、「患者さんに対して十分に時間がとれない」など医療スタッフの中でのジレンマもありましたが、聖隸キャンサーレター Vol.8で報告させていただいた様に、ピアノ奏者としての「その人らしい時間」を支えるために院内でピアノ演奏会を開き、その方と周囲の人々で共に時間を過ごす事が出来ました。



おわりに

この度の緩和ケア病棟再開を機に、私たちは地域の皆様に信頼され、選んでいただけるよう緩和ケアの提供を行い続けます。また、私たちのケアによって緩和ケアを受ける方の苦しみが和らぐよう精進してまいります。

緩和医療科 病棟課長 鎌田 佳子